

日本海スケトウダラ資源調査結果

平成 29 年 11 月 2 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量は、宗谷・留萌海域で前年比 1.20 倍，石狩・後志海域で前年比 1.29 倍，檜山・渡島海域で前年比 1.14 倍
- ◎魚探反応量の大きかった積丹半島周辺では尾叉長 40 cm 前後の 5 歳魚（2012 年級）が魚群の主体，雄冬岬以北では 20 cm 前後の 1 歳魚（2016 年級）と 20 cm 台後半の 2 歳魚（2015 年級）も多く分布

1. 調査概要

2017 年 10 月 12～23 日に道西日本海の図 1 に示した海域において，稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により，計量魚群探知機 EK60 と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

魚探反応量の大きかったラインの魚探画像を図 2 に，魚探反応量 NASC の分布を図 3 に示します。今年度の調査では，積丹半島周辺から岩内湾（ライン H～M）および奥尻海峡（ライン Q 東）において，大きな反応が見られました。海域別の反応量は，宗谷・留萌海域で前年比 1.20 倍，石狩・後志海域で前年比 1.29 倍，檜山・渡島海域で前年比 1.14 倍となり，各海域とも前年度より増加しました。

※金星丸で実施したライン N～W の魚探反応量は，2 船共通ラインにおける反応量を比較した結果に基づいて補正しています。

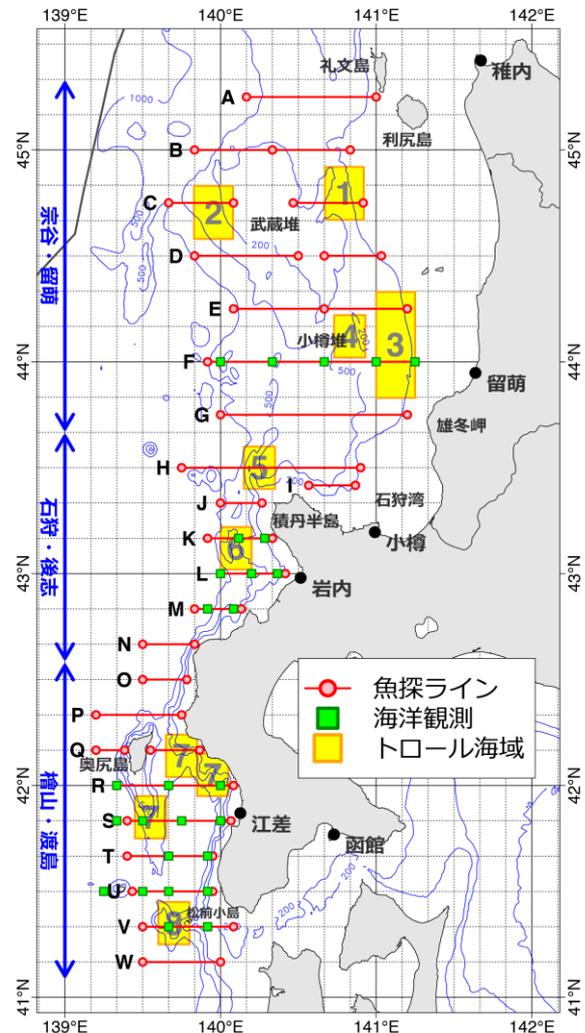


図 1. 調査海域図

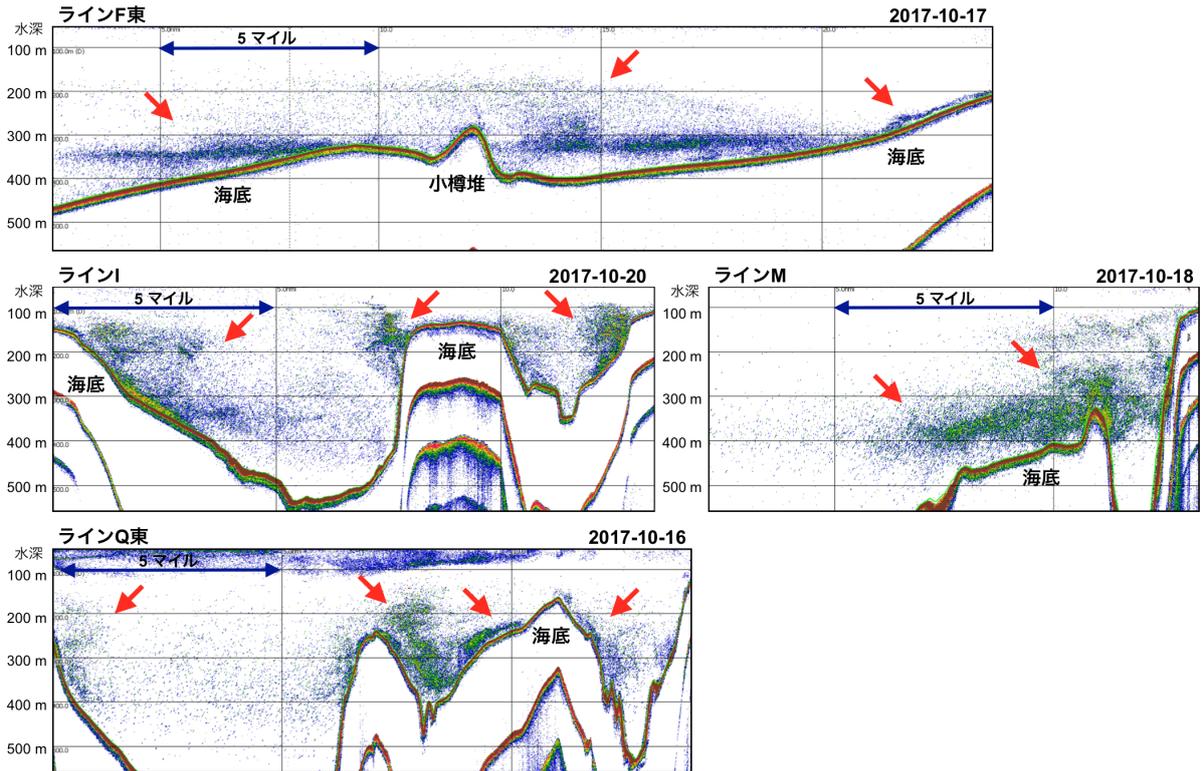


図 2. 魚探反応量の大きかったラインにおける魚探画像（エコーグラム）。
赤矢印はスケトウダラ魚群と見られる反応。

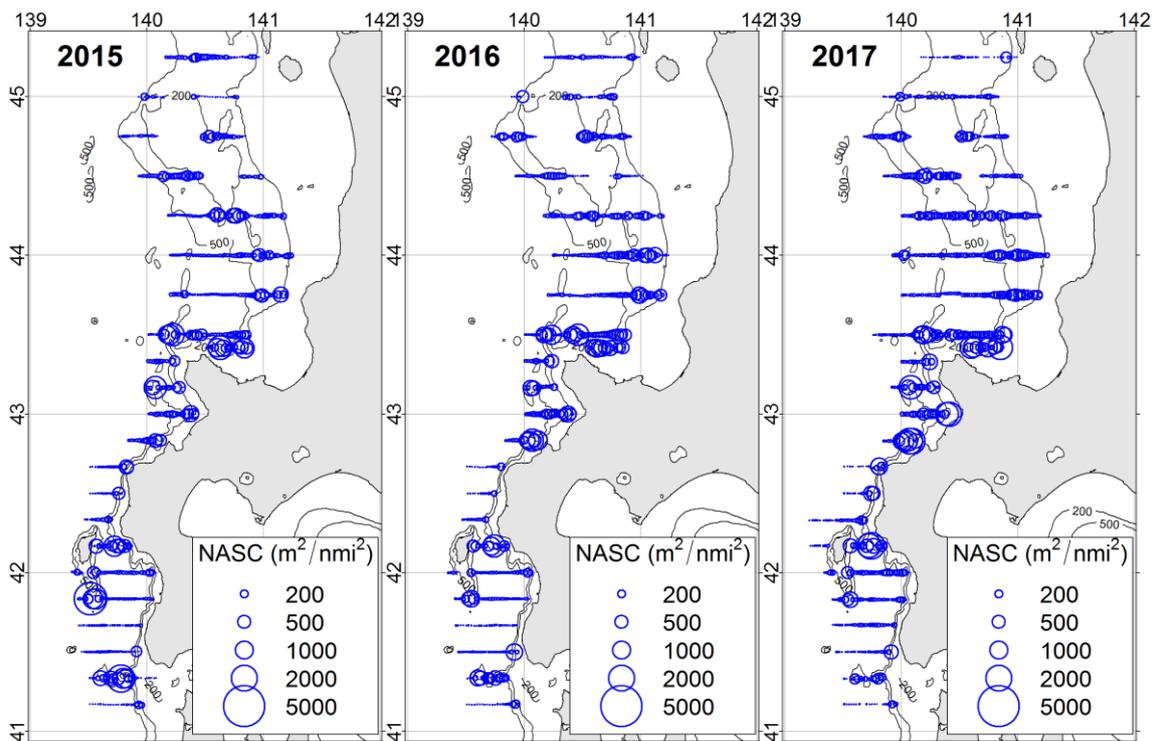


図 3. 魚探反応量 NASC の分布。

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる。

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図4に示します。

武蔵堆西や小樽堆西では、尾叉長 20 cm 前後の 1 歳魚（2016 年級）と 20 cm 台後半の 2 歳魚（2015 年級）を主体とした未成魚が多く、そこに 35 cm 以上の成魚が混じる組成となっていました。魚探反応量の大きかった積丹沖と岩内沖では 35 cm 以上の成魚が主体でした。檜山・渡島海域では 35 cm 以上の成魚が主体でしたが、相沼沖と奥尻島東では 20 cm 台後半の 2 歳魚も採集されました。

尾叉長 35 cm 以上の成魚の年齢組成は、9 月調査採集魚の年齢査定結果から、40 cm 前後の 5 歳魚（2012 年級）が主体で、次いで 40 cm 台後半の 11 歳魚（2006 年級）が多いと考えられます。

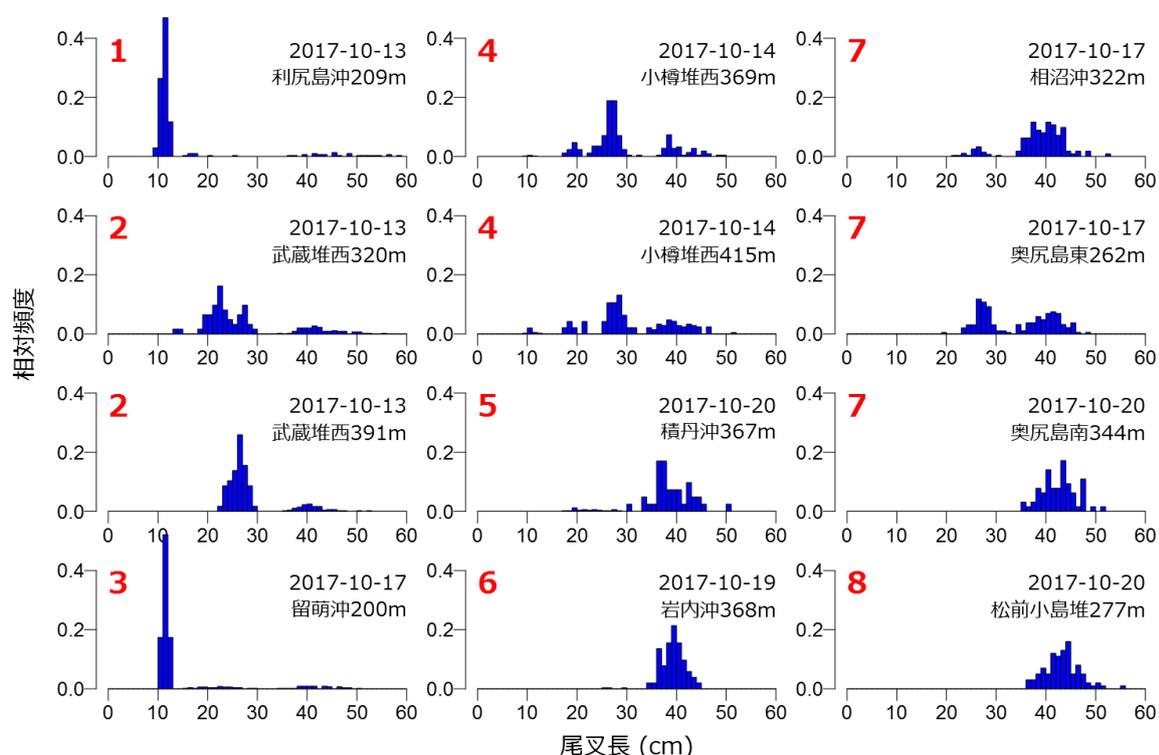


図4. スケトウダラの尾叉長組成（2017年10月道西日本海）。

赤字は図1のトロール海域番号と対応。

4. まとめ

- ・宗谷・留萌海域：魚探反応量は前年より増加しましたが、30 cm 未満の未成魚の割合が高くなっているため、小型魚の混獲には注意が必要です。
- ・石狩・後志海域：魚群の主体は成熟した 5 歳魚と見られ、魚探反応量は前年より増加しています。
- ・檜山・渡島海域：奥尻海峡周辺では魚探反応量が前年より増加しており、5 歳魚と 2 歳魚が魚群の主体と見られます。松前小島周辺では 5 歳以上の大型魚が主体ですが、魚探反応量は前年より減少しています。